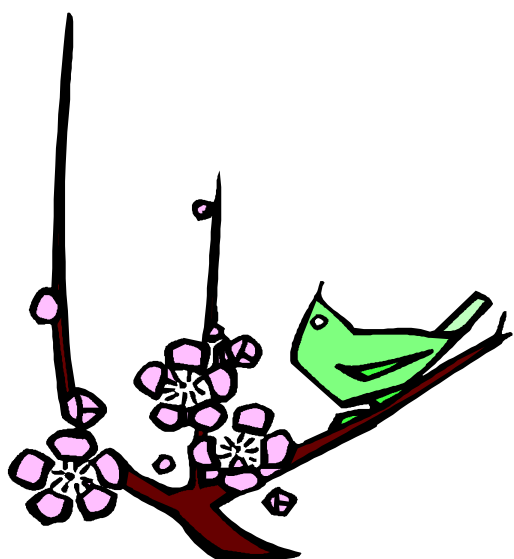


高齢者ヘルパー 就業事例集

Vol. 3



名古屋市高齢者就業支援センター

名古屋市昭和区御器所通3丁目12番地の1

TEL: 842-4691 FAX: 842-4894

ホームページ: http://www.bes_c.com/

ホームヘルパー座談会

本音の語り

60歳を過ぎてからホームヘルパーの仕事を始めた3人の本音の語り。そこにはきっと、ホームヘルパーの仕事の面白さや難しさ、仕事をする上でのヒントや奥義がたくさん詰まっているはずです。とくにご拝読を！！

定年退職後、家に閉じこもってばかりの自分が心配になって…。(高井)

- どうして、ホームヘルパーになろうと思ったんですか -

(敬称略)

長尾: 定年退職をしてからというもの、ずっとテレビの番人でした。「これじゃあいかん」と思い、生活にハリをもたせる意味でも応募しました。ただ、年齢が年齢だけに働けるかどうか心配でしたが。

高井: 私も長尾さんと同じで、定年してからずっと家にばかりいたんです。そんな自分がだんだん心配になってきて……。私にも家事くらいは出来ると思い、応募しました。

土田: 私はお年寄りが大好きなんです。だから、以前からずっとお年寄りの方に喜んでもらえる仕事がしたいと思っていたので。

- ホームヘルパーの仕事はどうか -

高井: 最初の頃は、ヘルパーの仕事を終えて家に帰ってからも、利用者さんのことばかり気になってしまって、逆に自分を追い詰めてました(笑)。

長尾: そういうことはありますよ。情が移るといっか、のめりこんでしまうんです。だから、“やり過ぎは利用者さんのためならず”と自分を戒めています。



氏名 高井 澄子さん(61歳)
所属 アースサポート株式会社

ヘルパーの仕事をしてから、感覚が変わったようです。(長尾)

長尾：ただ、ヘルパーの仕事を始めから、考え方が変わったというか、感覚が変わったみたいです。以前は、潔癖症で人が触ったものは、絶対に触りたくなかった。今、利用者さんの入れ歯を掃除していても“きれいにしたい！”としか思わなくなりました。

土田：そうそう。私もトイレに顔がくっつくくらい近づけて、掃除してるんです。自分でもホントに不思議(笑)。

高井：私も汚いとは思ったことはありません。



氏名 長尾 欽次さん(69歳)
所属 社団法人名古屋シルバー人材センター

“もう、……。”ではなく“まだ、……。”の声かけが大切。(土田)

- ホームヘルパーとして一番大切なことは何ですか -

長尾：何事も押し付けないことかなあ。その方の長年の生活スタイルが



氏名 土田 昭枝さん(60歳)
所属 特定非営利活動法人すけとつファミリー

ありますから。あと、コミュニケーションです。私は利用者さんと年が近いので、よく昔話をするんです。昔話は、本当に話が弾みますよ。

土田：すごくわかる！古い唄を知っているとかって、利用者さんも実感として話題を共有できるのよね。私も、話が合う人で良かったと利用者さんに言われます。それともう一つ大切なことは、前向きな声かけを続けることだと思うんです。「もう80歳。」ではなく、“まだ80歳。人生はこれからよ”とか(笑)いくつになっても、やっぱり前向きに生きたいじゃない！！

取材を終えて・・・

3人が話されている様子を見ると、“こんな風に年がとれたらなあ”という思いが、ふと頭をよぎります。生きがいのある仕事を持ち、その仕事に一生懸命に打ち込む。

“シルバーパワー！ここにあり”

そう感じさせられた2時間でした。

ヘルパーさんには“いい顔”で仕事をしてほしい

アースサポート株式会社名古屋営業所

高齢者ヘルパー（60歳以上）の割合 = 14.9%（7人 / 47人）

最高齢ヘルパー = 75歳

キャッチフレーズ = 高質・迅速・安心

「ホームヘルパーさんには“いい顔”で仕事をしてほしいんです。“いい顔”で仕事をすれば、きっと利用者さんも“いい顔”になりますから」

と話すのは、アースサポート株式会社訪問介護主任の山田さんです。

- それでは、どうしたら“いい顔”になれるのでしょうか。 -

「私は、ヘルパーさんが“いい顔”で仕事ができるよう、利用者さんの情報をできるだけ伝えるようにしています。そうすれば、安心して仕事ができますから。また、利用者さんの“いい顔”を引き出すには、ヘルパーさんとの会話が大切だと思います。その点、60歳以上のヘルパーさんは、利用者さんと年齢が近いこともあるからでしょうか、利用者さんの話を自分の経験を通して共感できるようです。利用者さんも、そういうヘルパーさんには信頼しているいろと話をしていますよ」

「それに、歳を重ねているヘルパーさんは、利用者さんの言葉の裏側を汲んで、動くことができます。例えば、『今日も部屋の掃除をしましょうね』といつもどおりの声かけをしても、利用者さんが断ってしまうことがあるんです。そうした時、若いヘルパーさんなら『そうですか』で終わってしまうかもしれませんが、でも、歳をめされたヘルパーさんは、『どうして、今日はそんな風に言われるんだらう』と考え、相手の気持ちを分かろうとするんです。そうしたことも、経験からくる共感があるからでしょうね」

- たくさんの高齢者ヘルパーを採用していますね -

「いい人材を採用しているだけで、年齢で左右されることはありません。高齢の方が若い方に劣るということは、ホームヘルパーの仕事ではありません」

- 最後に、山田さんが考える理想のヘルパー像を教えてくださいませんか -

「ホームヘルパーをチームの仕事として考えられる人ですね。一人のヘルパーさんがやり過ぎてもいけないし、やらなさ過ぎてもいけない。仕事を統一することが大切です。そのために必要なことは、正確な記録と介護保険制度の理解ですね」



「ヘルパーさんが安心して働ける環境をつくりたい」と言う山田さん（『事務所』にて）